井上かつひろ
ホームページ
☆「QR コード」を読み取って閲覧☆

「住民こそ主人公」
市議会報告
きずな

「きずな」の定期配布
「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布（無償）希望の方は連絡を下さい。

第 1142 号
2025 年 12 月 21 日
発行　日本共産党井上かつひろ事務所
薩摩川内市樋脇町塔之原 10439
TEL 38-0237 携帯 080-3996-0237

12 月市議会
一 般 質 問

サーキュラーパーク九州（川内火力発電所跡）に巨大データセンター計画
「事業者任せ」なのか－井上議員が追及

サーキュラーパーク九州に計画されている350メガワット規模のAIデータセンターは、原発1基の4割に相当する電力を消費する巨大施設です。12月議会で井上勝博議員は、電力供給、電気料金、廃熱、環境、防災など市民生活への重大な影響について、市が独自に調査・評価を行っているのかをただしました。

電力消費は170万人都市に匹敵

計画されているデータセンターの規模は350メガワット、すなわち35万キロワットです。年間の電力消費量は約30．6億キロワット時となり、一般家庭の年間使用量で換算すると約76万世帯分に相当します。これは人口約170万人の都市家庭が使う電力量に匹敵する規模です。

また、九州電力川内原子力発電所1基の出力は約89万キロワットであり、このデータセンター1施設だけで原発1基の約4割の電力を消費する計算になります。

井上議員は「これほどの電力を一気に消費する施設ができれば、地域の電力供給や電気料金に影響が出ないはずがない」と指摘しました。しかし市は「議員の計算なので正しいかどうか答えられない」「事業者と送配電事業者が協議している」と述べるにとどまり、市として電力消費の影響を評価していないことが明らかになりました

廃熱や水温上昇、防災リスクへの不安

同規模のデータセンターが計画されている東京都昭島市では、住民が公害紛争処理法に基づく調停を申し立て、膨大な廃熱による気温上昇や水資源への影響が問題となっています。調停資料では、毎日「25メートルプール約354杯分の水を常温から100度まで上げるエネルギーに相当する廃熱」が放出されると指摘されています。

薩摩川内市でも、冷却のために川内川の水が使われる可能性があり、水温上昇によるシラスウナギなど生態系への影響が懸念されます。さらに、停電時には大規模なバックアップ電源が必要となり、ディーゼル発電機や大量の燃料タンクを抱える災害時リスクも無視できません。

しかし市は、これらについても「事業者が関係法令に基づいて対策を講じる」と述べるのみで、市独自の科学的調査を行う考えは示しませんでした。

市民説明は「進捗に応じて」

井上議員は、市民が最も不安に感じているのは「安全は守られるのか」「電気料金は上がらないのか」という点だとして、市の責任で住民説明会を行うべきだと求めました。

しかし市は、「議会や地域団体に情報提供を行う」「進捗に応じて説明する」と答えたものの、説明会の時期や具体的な方法は示されませんでした

巨大データセンターは単なる企業誘致ではなく、地域の電力、環境、防災、生活全体に影響する問題です。

市が主体的に調査し、市民に説明する責任が、いま厳しく問われています。

※ 次号では、使用済み核燃料の乾式貯蔵施設問題を詳しくお伝えします。

市の姿勢が問われている

井上議員は、「完成してから問題が表面化するのでは遅い。市民の安全と暮らしに直結する問題を、事業者任せにする市政は許されない」と強く訴えました。

１２月議会で一般質問する井上議員（＝８日、本会議場）

こちらくらしの相談所
（No. 633）

携帯 080-3996-0237（井上）
なんでもご相談ください。

バドミントン利用者の声－「シャトルが見えにくい」照明・壁の改善を要望

樋脇体育施設を利用するバドミントン愛好者から、「照明や白い壁の影響でシャトルが見えにくい」との相談が寄せられました。

市は当面の対応として、照明が目に入りにくいコートへの案内を行い、利用者の意見を聞きながら対応しています。

しかし、コート位置を変更しても状況は改善せず、利用者から遮光カーテンの設置を求める声があがっています。市は「今後も検討していく」と回答しています。

こうした改善が進めば、バドミントン愛好者が安心して利用できる環境が整い、体育館の利用者増加という市にとってのメリットにもつながるのではないでしょうか。

後援会主催の「もちつき大会」ご案内は二面

二面もおよみください

エプロンおばさんの簡単クッキング（687）

里芋の簡単煮っころがし

材料（1人分）……
里芋６個、Ａ（酒・みりん・しょうゆ各大２、ごま油小２）、粉さんしょう少々

作り方

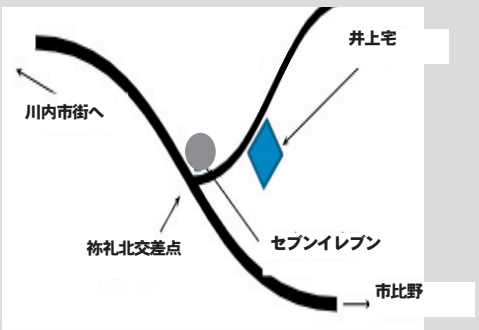
①里芋は洗い、ラップに包んで電子レンジ（600ワット）で５分加熱し、粗熱をとる。皮をむき、２～３等分に切る。

②フライパンに①とＡを入れ、中火にかけて汁気がなくなるまで炒め煮する。器に盛り、粉さんしょうをかける。

今年も恒例の

もちつき大会

日時　12月21日（日）午前11時
会場　井上かつひろ市議宅
　　樋脇町塔之原10439
　　☎080（3996）0237
参加費　500円



主催：日本共産党薩摩川内市委員会／同後援会

No.64　シネマ太郎の映画評と案内　佐藤忠男、映画の旅（2025年）

日本で初めて、ひとりの映画評論家に迫ったドキュメンタリー映画です。著名な映画評論家であり、日本映画学校（後の日本映画大学）の校長・学長でもあった佐藤忠男（2022年、91歳で死去）は映画評論だけでなく、大衆文化や教育など多方面の研究・分析をし、150冊を超える著書を残しました。1930（昭和5）年生まれ。日本が戦争へ突き進む時代は軍国少年であり、戦後、はじめてアメリカ映画をみて、「こんな自由な世界があったのか」と驚いたそうです。それからは映画にのめり込み、映画雑誌の編集長を経て映画評論家に。みた映画は1万本以上。これまでで最高の映画は小津安二郎監督「東京物語」。いちばん好きな映画は「魔法使いのおじいさん」という1979年のインド映画だとうれしそうに話します。このドキュメンタリーの監督は佐藤忠男の教え子でもある寺崎みずほ。先生がそんなに好きな映画なら調べてみようとインドまで出向き、「魔法使いのおじいさん」の撮影地や関係者に取材をし、映画のエピソードを掘り起こしていきます。後半生は、知られていないアジア映画を発掘し、世界へ紹介することをライフワークとするようになった佐藤忠男。彼を突き動かしたものは何だったのか。私はこのドキュメンタリーをみて、それは、常に弱い立場の人、政治的にも経済的にも、強者に抵抗できない弱者の側から論じるその視点であったと思いました。妻・久子さんのサポートが印象的です。いかに夫・佐藤忠男が頼りとしていたか。この映画は1回だけの上映で、しかも平日の夜。観客は10人ほど。映画の字幕を担当したジェフリー・アイリッシュさん（南九州市在住。以前、下甑島に住み、漁師をされていた方）が上映前に話をされました。さて次の気になる映画は、「私たちが光と想うすべて」（12/20～ガーデンズシネマ）。

佐藤忠男、映画の旅

私たちが光と想うすべて

中俣先生のつれづれなるままに（818）

←中俣先生のブログはこちら

石ころ少女に出合った帰りの日のこと。待合室のベンチで帰りの電車を待っていると、「おじさん、ここに荷物置いていいですか」と、いきなり声をかけられた。見ると、両手一杯に買い物袋を提げた女の子が立っている。「別にいいですよ」。自分のベンチではないし。あっさり返事すると、女の子は荷物をどさどさと置き、これとこれとこれ、と念入りに自分の荷物をおじさんに説明している。五つだった。女の子はしばらくスマホを手にしていたが、いきなり立ち上がると、目の前の壁のソケットにスマホの充電器を差し込み、「荷物見てて」とトイレに走った。とにかく忙しいのだ。入れ替わって、運転を終えたばかりの若い駅員さんが、「！」と、たった今差し込まれたスマホの前で立ち止まった。しばらくして、盗電？とばかりスマホともども充電器を抜き取って、涼しい顔で立ち去った。ところへ女の子。すがすがしい顔でトイレから出てきた。「スマホが、スマホが。駅員さんが持ち去ったよ」と、荷物の向こう隣に座っていたおじさんともども女の子に教えると、「ああ」と悲鳴に近い声を上げて、パタパタと後を追いかけた。今どきの若い子はとにかく忙しいのだ。隣のおじさんは心配そうに立ち上がって、後ろ姿を目で追いかけている。やがてあたふたと帰ってくると、国分線の発車の時間。女は「ありがとうございました」と一礼して去った。二人のおじさんに、若き女の、爽やかな忙しさを残して。（詩愛好家）